

## iDeCo、やっていますか？

皆さんもこの名前を一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか？もう始めているよという方もたくさんいらっしゃるかもしれませんね。

「個人型確定拠出年金」、通称 iDeCo。

今回はiDeCoの簡単な解説やメリット、デメリットについてみていきたいと思います。

### ①そもそもiDeCoとは？

iDeCoとは個人が任意で加入できる私的年金の制度のことです。月々5,000円という掛金から始めることができる制度で、定期預金や投資信託などの金融商品のラインナップから好きなものを自分で選択・運用し、その運用した資産を原則60歳以降に受け取ることができます。

世界でも有数の長寿国と言われている日本では、現在の65歳の方の平均余命が男性で19.70年、女性

で24.50年（厚生労働省「平成30年簡易生命表」より）となっており、65歳以降の生活が20年以上続くという方も数多くいらっしゃいます。



そのような状況においても、iDeCoを資産形成方法の一つとして活用することによって、より豊かな老後生活を送ることが可能となります。

しかし老後生活のための資産形成方法は他にもいろいろありますよね。そこで次にiDeCoのメリットとデメリットについてそれぞれ見ていきたいと思います。

### ②iDeCoのメリット

iDeCoのメリットには次のようなものがあります。

- ・税制上、大きく優遇されている
- イ、iDeCoの掛金は全額が所得控除の対象となります。
- ロ、運用益や定期預金の利息も非課税となります。
- ハ、年金を受け取る時にも公的年金等控除や退職所得控除の対象となり、税負担が大きく軽減されます。

- ・運用する金融商品のコストが低い
- iDeCoで積極的な運用方法として活用されている投資信託は、一般に販売されている投資信託と比べて信託報酬などの運用期間中にかかるコストが低いものが多いです。

- ・転職や退職時に年金資産の持ち運びができる
- iDeCoで積み立てた年金資産は、転職や退職した後に移換の手続きを取ることで持ち運びが可能となります。

### ③iDeCoのデメリット

- ・60歳まで引き出せない
- iDeCoは原則として60歳になるまで積み立てた資産を引き出すことができません。そのため将来の資金計画を考えたくて活用する必要があります。

- ・加入時と運用時に手数料がかかる
- iDeCoに加入する場合、iDeCoを取り扱う金融機関で口座を開設する必要がありますが、その開設の際に手数料がかかります。
- また運用にあたっては手数料を支払う必要があります。

- ・運用のリスクは加入者自身が負う
- 選択する商品によっては掛金総額よりも受け取れる年金額が少なくなってしまう、つまり元本割れしてしまうケースもあります。

### ④まとめ

iDeCoは老後の資産形成という長期にわたる資産運用を後押しするために、税制面で大きな優遇を受けられる制度となっております。

確かに上記のようなデメリットもありますが、それらを理解したうえで活用していけば堅実な資産形成を図ることができます。

先にも書きましたが、月々5,000円から始めることができますので、気になった方は改めて老後の生活を想像しながら、iDeCoの活用を検討されることをお勧めします。